

みんなの学校

一地域とともにある学校づくり・まちづくりー

令和7年度
蒲郡中学校区
「学校運営協議会」だより
第2号
令和7年10月発行

地域学校協働活動をさらに発展させていくために

10月11日（土）10：00から、蒲郡中学校多目的教室において「第2回蒲郡中学校区学校運営協議会」が開催されました。

【会長あいさつ】廣中会長

三谷祭りの練習の中で、大人が子どもに教え、そして子ども同士が教え合うといった場面によく出会う。そんな姿を見ると、学校運営協議会の地域づくり、まちづくりと非常に大きく関わっている気がする。三谷だけではなくて、蒲郡市のそれぞれの地区のお祭り、伝統に根付く文化、そういったものが、この学校運営協議会の精神の基本となっているような感じがする。

練習の時には踊っていた小学校3年生の子が、太鼓やお囃子のリズムに合わせたら踊れなくなってしまった。その子に6年生の子が手取り足取り一緒に踊って教えた。こういった周りを気遣う動きというものは、一つのものを作り上げていくという時に非常に大事になる。

皆さんの意見を聞いて有意義な会にしていきたい。

【校長代表あいさつ】蒲南小・遠山校長

先日10月1日水曜日ですが、本校で学習指導研究会を開催しましたところ、この協議会から12名の方にご参会いただき、誠にありがとうございました。

「夢中になって学ぶ蒲南っ子」をテーマに授業公開と協議会を開催した。蒲南小では学校運営協議会でお認めいただいた教育目標「自律・尊重・創造する子」これを育成するために授業はどうあるべきか挑戦的に研究をしてきた。今、授業づくりで常に意識していることは「社会に開かれた教育課程」です。「地域学校協働活動」が始まって以来、推進員の水野さん、早川さんのおかげで、5年前にはできなかった地域とともにに行うダイナミックでリアル学びが、できるようになった。「地域課題を解決し、行動を起こす」というリアルな学びだからこそ、子どもたちを夢中にさせることができているのかなと考える。そして、嬉しいことに、これら授業での学びが授業だけで終わらず、自分たちの生活を豊かにする活動へと発展する姿が見られるようになった。子どもには自分で生活を変えていく力がある。私たち大人が子どもをもっと信じて、任せるところは任せて、子どもの良いところを引き出すような教育をしていくべきと改めて今感じている。地域の人と関わることそういう土壤ができてきたおかげで子どもたちが育ってきている。どうぞ今後もよろしくお願いします。

【協議】(1)「学校評価アンケート」について

学校評価アンケートについては、学区として学校を見ていくこうということで、昨年度より学区で項目を統一させていただいている。昨年度の結果については、各学校のホームページ等に掲載している。このアンケートを分析して課題点や問題点をリストアップした上で、学区としてどうしていったらよいかということを学校運営協議会の委員の皆様にも一緒に考えていただきたい。本年度も昨年度と同じ項目でアンケートを実施していく。

【協議】(2)四校一斉あいさつ運動の取り組みについて

本年9月に実施した、本年度1回目、昨年度から合わせて3回目のあいさつ運動では、約100名もの児童生徒が参加するなど四校の児童生徒にとって、ごく当たり前のものに定着してきた。しかし、四校一斉あいさつ運動で交差点に立つことが自動車の脇見運転を誘発してしまったり、四校一斉あいさつ運動を実施していることを地域の方に広く伝えて理解を求めることが難しかったりするなど、学校だけではなかなか解決できない課題も明らかになってきた。また、参加した児童生徒からは、地域の方々も少しあいさつを返してくれると嬉しいな、とか、あいさつ運動の時はあいさつできるが、あいさつ運動が終わってしまうとあいさつに対する意識が低下し日常的に定着しない。中には家

【第2回学校運営協議会】

- 1 はじめのことば
- 2 会長あいさつ
- 3 校長代表あいさつ
- 4 経過報告
各校の地域学校協働活動
の取り組みについて
- 5 協議
 - (1)「学校評価アンケート」について
 - (2)四校一斉あいさつ運動の取り組み
について
 - (3)その他
- 6 しゃべり場
あいさつチームをつくるために、何が
必要か。何が大切かについて
- 7 連絡
 - (1)今後の予定
 - (2)その他「つながるーむ」について
- 8 おわりのことば



【廣中会長】



族にあいさつするのが照れくさいといった反省も出された。

ここで、この四校一斉あいさつ運動が始まった経緯を振り返ってみると、令和6年度の第1回学校運営議会の熟議に「めざす児童生徒像から見た今の子どもたちは」において、委員の皆様から、学校と地域が一つになったあいさつ運動をしたい、協力者の顔と名前のわかるバッチを製作できないか、あいさつで顔見知りになりたいなどの意見が出された。その後、子どもサミット、四校連絡会、学校運営協議会、さらに話し合いを進め、ここまであいさつ運動に成長してきた。

そこで、四校一斉あいさつ運動をさらに盛り上げ、学校と地域や一つになったあいさつ運動を展開するために、この蒲中学区学校運営協議会の中に「あいさつチーム」を創設してほしい。そして、子どもも大人も爽やかなあいさつのできる蒲中学区をめざしていきたい。具体的な取り組みについては、まだ確定はしていないが、四校一斉あいさつ運動への協力、各学校のあいさつ運動に対するアドバイス、学区や家族間のあいさつが向上する施策の提案などを想定している。まだメンバーについては、人数は限定せず委員の中で希望される方に入っていただく形にしたらどうかと考えている。

この蒲中学区学校運営協議会の中にあいさつチームを創設するということをご承認いただけたら、この後のしゃべり場（熟議）で、委員の皆さんから具体的な取り組みとか問題点などあいさつチームについてのご意見をいただきたい。

【委員さんからの意見・提案】

- ・「0の日」に交差点に立ってあいさつするのは交通安全の服を着ているし特に問題はないが、日常的に道路上で児童や生徒に声をかけると不審者と間違われないか、どういうタイミングで声をかければよいのか考えてしまう。
- ・子どもより大人の方があいさつの面で学ばないといけないと思うので、協議会委員の中であいさつチームを立ち上げることは、賛成である。
- ・小中一貫型のこのコミュニティスクールを作っている学校運営協議会が学校の授業に関われるといいなと思う。例えば、総合的な学習の時間を学校とこの学校運営協議会で作り上げていくような、そんな審議ができるといい。今後、学校運営協議会の話題として取り上げれば、学校運営協議会を一步進めていく、一つの手段にもなる。

→協議(1)、(2)は、どちらも満場一致で承認された。

【しゃべり場】「あいさつチームをつくるために、何が必要か。何が大切か」について

<しゃべり場から出た意見のまとめ>

★目的の明確化

- ・スマールステップの設定
- ・話し合って出されたアイデアを実現するまでの見通しをもつ

★やり方

- ・あいさつのハードルを上げない
- ・あいさつ+一言付け加え、ハイタッチ
- ・早寝早起き朝ご飯からのあいさつを
- ・朝、家で子どもを送り出すときの一言運動
- ・地域の方と親しくなるための地域の行事、イベントの企画
- ・あいさつの価値を大人も子どもも認識させる
- ・あいさつの日を交通安全と併せて実施

★課題 その他

- ・メンバーの人に学校でのあいさつの様子を知ってもらう
- ・学校にかかる大人を増やす（学校公開日など）
- ・報酬、活動費

★メンバー作り

- ・委員の交代があるが、継続性を確保
- ・チームの代表が必要
- ・様々な立場や年齢で構成（地域、PTA）
- ・学校運営協議会の委員以外のメンバーもいれることを視野に
- ・地域別のメンバーを
- ・学校内にもチームを

★評価

- ・あいさつによるよい変化をどこで取り上げるか。
- ・ゴールの設定



★周知

- ・あいさつチームとわかるようなユニフォーム、バッチ
- ・あいさつチームを周知してもらうために（子ども、地域）
- ・あいさつチームの愛称づくり
- ・あいさつチームが子どもサミットにも参加を
- ・企業や団体にも「一斉あいさつ強化週間」の案内を



【参加した中学生の感想】

- ・今日はこんなに学びのある会に参加させていただいて本当に嬉しかった。私の弟が小学4年生で今、新しくできる未来キャンパスのことをよく家で話していて、ランドセルにチラシ貼ったり、でっかい模型を家に持ってきて帰ってきて、ずっと作っていたり、とても楽しそうに活動している。そうやって小中学生が蒲郡のことについていろいろ考える機会が増えているなって感じている。これからもこのあいさつチームとかを通して、もっと小中学生がこれから蒲郡を作っていくっていう意識をもって活動していけたらいいなと思った。
- ・以前子供サミットに参加して、今回と同じようにあいさつ運動について熟議したのですが、その時の熟議とはまた違う熟議が今日できたので、とてもいい経験になった。ぼくたちは先輩と四校一斉あいさつ運動を行ってきて、地域の方とあいさつを交わせてとても楽しかった。とてもいい活動だなと思うので、あいさつチームができたら、地域の大の方と協力して、中学生と大人が一体となって、みんなであいさつをしていけるといいかなと思った。

以上、第2回協議会の概要でした。